

永明小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・新しい学校が開校する場合は、改修するのか。新しい場所に建設するのか。
- ・お金の問題があるので、最初に考えられるのが統廃合。
- ・統廃合の基準が国や県から示されているのか。
- ・小学生中学生一緒に生活するのは面白い。永明小中の縦割の関係性がいい。統廃合は賛成。

○人数について

- ・学年によってクラスの人数の基準変えられないのか。

「小規模大規模のメリット」

- ・大規模のメリットは、多様性・競い合うこと。刺激が多い。クラス替え。デメリットは人任せにする場面が出てくる。30人以上だと先生の目が届きにくいのではと不安。
- ・小規模のメリットは社会と繋がっている。デメリットは多様性や自身の気づき補うことが必要（オンラインの取り組み等）。

「程よいクラスの人数」（参加者から質問）

- ・25～30名くらい。30人超えると逆に仲いい子が限定されている気がする。いろんな意見が出るが、処理できていない気がする。

○通学方法について

- ・小規模の学校から大きな学校へバスで通うなど、子ども達に負担ないように。

○その他

- ・海外では市内の中心部に施設が1つあってみんなでシェアする。（学校やスケートリンクなど）。教育に特化した特区作っていく。サテライト型のスクール。
- ・街の人が自分たちのまちをどうするかという転換点。

○アンケートフォームより

- ・統廃合を進めるべき。教員のマンパワー・設備等にかかる費用削減も含め、茅野市自体の将来のためにも、統廃合を進めた方が良いと思う。
- ・学校を中心とした街づくり。教育施設の集約化だけでなく、地域全体の持続可能な発展と人材育成を目指す総合的な教育・コミュニティハブを作っていく。教育に限らず、まちづくりの対話を市民と行政でおこなっていければよい。

【第2回】

○人数について

- ・複式学級をなぜそこまで避けようとするのか。
- ・対面の時間が少ない複式学級の子は、学力に影響があると証明されているのか。また、人間関係の固定化や男女比について。男女比気にしないといけないのか。

○山村留学について

- ・山村留学は、移住促進などの観点から魅力的だと思うが、実施の可能性はあるのか。
- ・行政は、何か対応することがあるのか。住民がやることなのか。

○選択制について

- ・機会の均等化というところで、複式学級の学区になった場合、選べる環境があるというのはいいと思う。

宮川小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・児童数の減少、財政難だと説明されると「しょうがない」という意見になる。閉校し合併するのか、新しい学校を開くのか。
- ・子供の教育環境から考える学校のあり方を考えていきたい。
- ・学校の教育をどうするという観点から学校の数を考えたほうが良い。
- ・小規模特認校制度について。特色を出して学校を残すのもありか。
- ・小規模特認校の制度説明、避難所など様々な資料や可能性を示して考えていきたい。

○通学方法について

- ・通学で歩くことは子供の楽しみである。

○財政について

- ・財政の状況を教えてほしい。危機感が伝わることで違う考えも出せる。

○その他

- ・施策として茅野市の中で人を集中させるのか。分散させるのか。
- ・若者が茅野市に戻ってくるような、子育て世代に魅力ある街にしたい。
- ・帰属意識や郷土意識などが考えてほしい。宮川小は立地的にこのままの場所でいいのか。
- ・学校がなくなった場合、地域の活気がなくなるのが心配。
- ・自校給食維持してほしい。災害時に温かい食べ物を提供できる。
- ・市の困り感をもっと示してほしい。
- ・宮川ドリームゼミのように地域に素敵な大人がいることが魅力になる。
- ・考えるのは市民なので、当事者意識をもつ。グループワークをしたい。
- ・高校・大学生の考えを聞くのはどうか。

【第 2 回】

○市の施策について

- ・茅野市のビジョンは、人口を都市部に集中させるのか、分散させるのか。そこが示されないのに学校再編の話をするのは難しい。

○移住について

- ・人口を増やす政策あるか。4～5 年くらいで急激な人口減少の原因の分析はあるか。

○その他

- ・どこの学校をターゲットにしているのか。他の小学校区で出た意見を共有してほしい。
- ・市民全員が納得するのは難しい課題。2 回目の対話で出た意見を教えて欲しい。
- ・プラスの面も見せながらしていけたらよい。
- ・1 回目の出席人数から、地域差がある。結論は地域ごと違うと思うが、今後の落としどころをどのように考えているか。
- ・小規模の方が、活発な意見があるか。
- ・他人事ではいけないと思う。

米沢小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・児童生徒数も減る。現状の中学校へ集約すればいい。
- ・9校維持は難しいと考えるが、児童数は移住等あり資料の通りにはならない。
- ・移住が増えるのでは。移住者は環境を選ぶ。地域とのかかわり、防災の拠点の観点もあり、今の中学校区で小学校を考えるのは不安だ。小規模のメリットもある。
- ・再編はしょうがないと思うが、残してほしいとも思う。

○人数について

- ・人数が多くなった場合の支援が必要な子をどう考えているか。学童をどう考えているか。
- ・少人数はきめ細かい指導ができるので賛成。大人数のメリットを出してほしい。

○通学方法について

- ・通学の足が保護者の負担になる。通学通勤バスに小学校低学年が乗るのが心配。
- ・歩いて通う時の地域との関わりが大事。スクールバスにしても歩く距離を作るのがよい。

○通学区について

- ・中大塩の学区について。中学校側に集約するのがよい。
- ・男女比率が偏った場合は、学校を選べる制度があったほうがよい。通学距離も同じ。

○財政について

- ・老朽化がトリガーになる可能性はあるか。
- ・学校施設と公共施設は分けて考えた方がよい。

○その他

- ・保育園・小学校・中学校で友人と違う学校に進学することが違和感。PTA役員の問題（負担）もある。家にいても授業が受けられる体制、仕組みになれば良い。
- ・移住を増やしている対策について、学校のカラーを出していくのが良い。
- ・こども達の意見を聞くつもりはあるか。
- ・海外からの受け入れ等特化してもよいのでは。
- ・中学校へ進学の際の人数のギャップが心配。
- ・今の課題を聞いて改善していく。課題を聞いてくれる・くみあげをする場所が欲しい。
- ・保護者の考える判断材料が少ない。他市は無料提供が強みという保護者がいる。具体的な判断材料（建替え経費、給食費無料化の経費やその財源の根拠を考える資料）がほしい。

【第 2 回】

○再編について

- ・現実問題としてこの 6 パターンは実現できると考えているか。

○人数について

- ・理想の 1 クラスの人数はあるか。少人数の方が、きめ細やかな指導が受けられるので、少人数も悪くはないと思う。

○財政について

- ・感情だけで言えば 9 校維持をしていきたいが、正直無理だと思う。遠いからバスを出すとか、校舎の立て直しで瞬間的に財政負担が大きくなると思うが、財政的に出してもらえるのか。
- ・財政面は、市民はわからないので市でしっかり判断してほしい。子どもの教育環境という部分で保護者の意見を吸い上げて、行政が最終判断をしてくれればよい。

○小規模特認校制度について

- ・制度利用している人はどの程度の距離感から通っているのか。

○その他

- ・先生方からすると、教えやすい人数や環境があると感じる。複式学級の仕組みなどは、市民は意外とまだ知らないと思うので、周知できればもっと良い意見が出てくると感じる。
- ・米沢小学校は永明中学校と北部中学校に分かれて進学する。永明小学校の子と交流すると、米沢小は人数が少ないので、力の差を見せつけられて残念な気持ちになる子もいる。中学校にあがるタイミングで環境が違うという意味で、平等というのも頭の中にほしい。

豊平小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・9校を維持するとなった場合には、どんな施策が必要と考えているか。
- ・学校づくり＝地域づくりと考える地域こそ、地方の小さい学校。地域としても、協力できることがある。いろんなタイミングで、地域の話も聞いてほしい。
- ・学校とコミュニティーセンター、学校と公民館など施設統合を考えたらどうか。
- ・地域対話の進め方がフェアじゃない。残す方の議論もできるような資料にするべき。
- ・どのような教育環境が最適かという話には、極端な教育像（座学はオンラインで3Dの教員の授業を配信。つまづいている子にはAIが補助。集団での学びは週数回集まる）も例示してほしい。

○人数について

- ・少人数の方がいい。大きい規模の学校をどこまで大きくするのが非常に心配。
- ・小規模で小学校6年間過ごすと関係性が固定化される。親の関係性が子どもにまで繋がっていくことが多々ある。小規模校なので、先生が動きにくい。
- ・国や県の発想を超えて、100人規模にして学校を増やすという新しい枠組みがあってもよい。
- ・人数の単位どこが最適かわからないので、学級単位ではなく、もっと小さな単位にして活動の展開や組み換えを自由にするのもよいのでは。そうすれば大きな校舎は要らない。

○通学方法について

- ・歩いて帰ってくる間に自然に触れたり経験したりすることで、心の豊かさにもつながる。都会ではできないところを活かしてほしい。

○財政について

- ・学校を廃校にした場合、どれだけ経費が浮くかの試算は出来ているのか。
- ・財源がないからここまでしかできないではなく、どうやってお金を工面するかという話をしてほしい。新しいことにチャレンジできるタイミング。

○その他

- ・学年が上がったときに学校替えられる制度はどうか。
- ・子どもの得意や不得意を見つけるために学校に集まると考えている。
- ・都会に比べ行事が多く、地域の人との係わりが多い。高齢者や自分より小さい子と係わることで社会性やコミュニティーを形成するということも考慮に入れてほしい。

【第2回】

○再編について

- ・豊平小学校がどうなるのか。再編の対象になっているのか。
- ・市内に施設がない保育園があると聞いたが、仕組みによっては、ハード面で縛りなく自由度高めに行けるのではないかな。

○複式学級について

- ・どういった場合、複式学級を取り入れるのか。

○地域とのかかわりについて

- ・小人数でも必要な時に集まればよいとも思う。小学校の機能がなくなっても建物が残れば、地域のコミュニティの中核になり、地域の魅力にすることができるのではないかな。
- ・地域で学校にかかわってくれる人がいる小規模の学校でよかった。移住の選択肢として、学校が近くにあることがいい。地域の住民との関係によって学校の良さが作られているという観点が抜けていると感じる。20～30年後、地域がどのようなコミュニティにしていきたいのかを地域が考える。今は急がなくても良いのではないかな。コミュニティの拠点がなくなるので、小学校を維持していくのは必要。規模がすごく小さくなるような学校は特殊な問題になるので、市全体で考えるのは難しい。豊平ももう少し人が集まって協力する学校にならないかなと思う。

○その他

- ・1回目に複合施設の話をしたと思うが、どのように検討をしたか。
- ・素案を検討するうえで、施設の複合化という話を進めてもいいのではないかな。
- ・柔軟に常に考えていかないといけない時代が来るという考え方は納得した。逆に人口が増えたら学校が増えるということもあっていいのでは。社会の弾力性を上げると強く明るくなるのではないかな。
- ・1回目に統合を前提にしないで欲しいと市教委に伝えた。変えていくチャンスととらえたい。
- ・下水道の負担金は人口が減っていけば一人一人の負担が大きくなるので税金で維持していくのではなく、浄化槽にした方が小さな負担で家を建てる場所も制限されないという考え方の転換があってもよい。広がる未来を子供たちに見せたい。
- ・テクノロジーや利便性が上がっているので、分散するという考え方があってもよい。今ある集落サイズで豊かに生きる方法を考える。
- ・この地域がいいと思って帰ってきた。茅野市を明るくしてほしい。茅野市に来て子育てしたいと思える所にしてほしいと思う。子育て世代に手厚くしてほしい。
- ・子育てがしやすいという視野で考えたい。
- ・その場所の価値を入れたうえで検討を進めたほうがいい。学校がここにあるから、その人たちが支えているから、教育環境がある。ご近所での関係も学校があるから生まれていると思う。
- ・昔から茅野市に住んでいる人がなぜここに住んでいるのかを分析しなおすと、魅力が増すと思う。

玉川小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・方向性が見えない。過疎地域での成功例など他の市町村の事例を教えてほしい。
- ・ソフト面での学校のあり方も充実させて、魅力ある茅野市の学校を発信できれば、移住者も増えるのでは。市民全体を巻き込んでいけたら、魅力的な学校が作っていける。
- ・スキー教室やスケート場が無くなる話があるが、こども達が充実した生活を送れるのなら残す決断はプラス。子ども達を第一に考えていきたい。

○人数について

- ・人数が減ることでのメリット、デメリットを次回提示できるようにしてほしい。デメリットを克服する仕方を考えていけるかもしれない。意見が出しやすい。
- ・小規模のデメリットは、支援級の学級が少なく基準以上の人数になることもある。転校生が目立ちやすく悪い印象が付くとなかなか外せない事。大規模のメリットは支援級もある程度の決まった人数でその子のペースで学習が進められる。デメリットは、大人数だと落ち着かない子やみんなのペースに併せられない子もいる。
- ・小規模のメリットは、1～6年みんなお友達。デメリットは、広い友達関係が少ない。
- ・1学級が30人以上だと先生の目が届かないのではと心配する。

○通学区について

- ・いじめがあった時、クラス替えが出来ず逃げ場がない。一方、大規模人数に馴染めない子もいる。子育てプランでは中学校区で連携しているので、学区を今の小学校区ではなく、中学校区にして、大規模の学校と小規模の学校の選択制にしたらどうか。
- ・日本の学校は学習指導要領に基づいているので、どの学校に行っても一定の中で教育ができると理解する。親や子供の希望で学校を選べるのができたら素晴らしい。

○財政について

- ・財政面の課題をこども達に押し付けているように感じられる。財政難の中で、職員の人員等にもメスが入れていることを示すことで理解する市民もいるのではないかな。

○その他

- ・地域の拠点として、地域との関わりが深い学校など人数が少ない学校があっても良い。
- ・財政的に統合は仕方がない。小学校時に統合経験があるが、その後の教育環境が大事。
- ・学校にばかり期待したり、任せたりするのではなく、2～3年くらいかけて、親の自覚的なところも育っていく事を期待する。

○アンケートフォームより

- ・施設として統廃合があっても、子どもの学ぶ環境は今以上に充実してほしい。特別支援学級などの説明があればよい。地域の方の考えも大事だが、施設を残すとしても、財源や将来の負担も含め議論していく必要がある。
- ・子どもの数だけでなく、これからの時代に合う学びの場を市・教育委員会・市民・保護者で議論していきたい。学びのあり方が魅力あるものになる機会にしてほしい。

【第 2 回】

○再編について

- ・ 6 つのパターンはどれも運用可能か。

○財政について

- ・ 9 校維持は財政的にも可能なパターンか。
- ・ 3/16 に講演会を聞いた。財政の状況を教えて欲しい。茅野市の財政が本当に厳しいのかという講師の話もあった。今日は財政の話はないのか。
- ・ 施設へのお金のかけ方を昔と比べて考えていかなければならない。体験・思い出など物でないものにお金をかける。教育にかかるお金を削るところを見直してほしい。昔の考え方で施設の維持をしていないかという観点から考えて欲しい。
- ・ 予算の配分。優先順位を決めていく必要がある。子どもにとって、どんな環境が最良の選択かという判断軸で決めていきたい。歩いて通える範囲に学校（機能）を残していくのが良いのでは。

○選択制について

- ・ いろいろな学校がある事を知った。小規模だからできる特色に魅力を感じたり、大きな学校に通ったり選択できるのが良い。通学区の見直しは早くしてほしい。いいものは取り入れられるように柔軟に対応できた良いと思う。

○その他

- ・ 学校の再編を検討する前に永明小中が建てられたが、なぜ建て替え前にこの議論がなかったのか。

泉野小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・教育委員会としてすでに腹案を持っているのか。
- ・資料は、「新たな枠組み」に向けて説得されていると感じる。維持する案も出してほしい。
- ・小規模特認校案に賛成。先生が目が行き届いていて、仲間意識も培っている。それぞれの学校での魅力を打ち出して、子どもたちが通いたい学校と思えるようにしてほしい。
- ・小規模特認校として認められるには、どのような手順を踏むのか。

○人数について

- ・1学級35人基準に当てはめてクラス編成をするのとしたら問題だと思う。
- ・正直に今後の児童数の減少は、不安である。

○通学区について

- ・9校維持する案として通学区の見直し等の文言を資料に入れてほしい。
- ・通学区を見直せば、児童数の均等化はできるのでは。
- ・今後の在り方を検討するうえでも、通学区の再編は必要。地区によって温度差がある。

○財政について

- ・泉野小を閉校した場合、財政面での効果は少額なのに、1つの地域の文化が無くなることは残念。建築費を減らしたいのと思うが、永明小中建築費は予算50億かかり財政を圧迫しているのはおかしい。
- ・建築費の将来性を考えて今回の対話が始まっているのか。

○その他

- ・廃校となる可能性がある学校は小規模で、永明小学校は無くならないと考えているか。
- ・長寿命化、改修の補助金があるという話を聞いた。長寿命化の補助金について教えてほしい。
- ・泉野小学校が無くなると保護者として寂しい。もちろん泉野小学校の統合賛成についても、意見があれば是非出してほしい。小規模特認校という仕組みは賛成。
- ・小規模特認校や複合施設を検討していると聞いて安心した。統廃合を考える会でも、同じ意見が出ている。今後こどもの学びの場として泉野小学校の存続を希望する。地域の在り方として存続してほしい。

○アンケートフォームより

- ・小学校の間は少ない人数で主体性が育てばよいと思う。学区によって状況が違うのでアンケートなどパーセンテージだけで判断しないでほしい
- ・9校維持を模索する。どうしても減らす場合は特色を残し再編する。学区は保護者や子どもの希望を聞き柔軟に対応する。学校を維持する視点での説明が必要。
- ・人数が少なくても小規模特認校制度などを利用し泉野小に通わせたい。地域住民の意見によって様々な形の提案が可能だと思うので、多くの人に考えを出してもらい茅野市全体で取り組んでもらいたい。
- ・小規模だからこそできる教育を模索すればよい。真剣に茅野市の子ども達のために統廃合問題を考えていきたいので、地域で温度差が無いようにしてほしい。
- ・少人数制学級を作る良い機会と捉えるべき。小学校が無くなると地域の過疎化が加速する。
- ・子どもにとって良い環境だといえるエビデンスがあれば納得できる。

【第2回】

冒頭で「統廃合を考える会」より要望書の提出報告があり、今日は様々な意見を聞きたいと発言された。

○再編について

- ・財政の問題。建て替え経費、9校を維持するだけの税負担を子供・孫に残すのか。負担を残すのではなく、自然も経済的にも豊かな環境を残す考え方があってよい。現在の9校は、各地区に1校あるだけなので、今の教育環境・人数を元に考えられた数ではないため、子ども達にどのような環境がいいのかを考えなおす機会。
- ・統廃合は賛成側。参加者の数を気にしているが、参加していない人は興味がないわけではない。アンケートでは7割賛成。

○小規模特認校制度について

- ・小規模特認校にして他学校区から児童が来るのか。全校で約40名は少ないと思う。複式学級になるなら大きい学校に行ってもしょうがないと思う。

○地域対話の進め方について

- ・何をメリットと考えてこの話を始めているのか。地域地対話の開催時間等について、設定時間は良かったと思うか。1回目の出席について、他の地区の参加者が少ない。市の狙いは達成できたか。地域対話を進めるために保護者の意見が得られたと思うか。参観日などで保護者会等集まった時に意見を求める方法ができたのではないか。

○人口増加について

- ・人口増加について他部署と連携をとっているのか。こどもが増えることを考えていければよいと思う。
- ・もっと市が地域の良さを示す方針を展開していかないといけないのでは。
- ・更なる移住促進を市に求めているが、何千何万と爆発的に人口を増やす泉野の魅力は何か。
- ・誰かに求めるのではなく、地域の人自身が豊かであるということが大事だと思う。自分たちで住みやすいと思う地域を作っていけばよい

○その他

- ・財政状況など、市民皆が考えなくてはいけない。どうしたら自分事になってくれるかと考えている。具体例が出ないと自分事にならないのでは。アピールの仕方を考えてほしい。泉野は地域から学校のことを考える会が立ち上がった。地域の良さはある。
- ・建て替え費は30億かからない方法や複合施設にして補助金を取れないか。1回目の参加人数のパーセンテージは出しているか。地域が支え、親育ちもある。こういった教育は茅野市の「売り」になる。
- ・もし再編をしたら、玉川小に通うのは小1の足では無理。市が住民を獲得するために、地域密着の学校を創り売りにする。地域密着の雰囲気がある学校を残してみたい。

○アンケートフォームより

- ・児童数の多い学校の保護者の参加が少ない中、これで保護者の意見を聴いたと判断しないでほしい。今後も保護者対象の地域対話を開催してほしい。人数が少なければ、建替えでなくても減築して小規模化や空家を利用した校舎などを考えてほしい。

金沢小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・特認校や分校など他の選択肢はないか。
- ・市として「どのように教育を展開していきたいか」という視点で検討を進め、そのための学校をどのように実現するかを考えるべき。
- ・最初にいくつか案を提示してほしい。今回の話は財政難を発端としているため、ある程度の規模の統合はやむをえない。もう少し責任感を持って、意見や選択肢を提示してほしい。
- ・他市町村の事例を共有してほしい。

○通学方法について

- ・仮に統合した際、通学方法が心配。学区の見直しは検討しているか。

○通学区について

- ・学校のあり方として、学区の見直しを行う中で、児童数の均等化を図ることは考えているか。今後の地域対話では、近い学年どうしでの対話も行いたい。

○財政について

- ・こどもの教育に対するビジョンが見えない。財政問題とこどもの教育は切り離して考えていくべき。人数が減ったから統廃合ではなく、どのような教育をしていきたいのかを考えてあり方を検討してほしい。お金が無いという割に永明小中は立派だと感じる。

○その他

- ・コロナ禍で学び方が大きく変わり、人と触れ合わなくなった。茅野市では、人とのふれあいが希薄でオンラインが多用される学びの環境を今後も想定しているのか。それとも、学校へ通う日を設けるなど、独自の学びを展開していくつもりか。
- ・今回の会議での意見が、金沢小の総意だとすることはやめてほしい。
- ・教員の今後の学校のありかたについての意見があれば教えてほしい。
- ・周りの保護者にも積極的に話を聞いてほしい。中学生の子に金沢小の在り方を聞いてみたが、自然が豊かで学びの多い金沢小学校の教育を今後も続けてほしいと話していた。
- ・同時間軸で、10代20代に向けて説明している内容や話し合いの報告を行ったほうが良い。またその内容を今後の先生に引継ぎできるような話し合いを行っていないのか。

○アンケートフォームより

- ・茅野市のビジョンを示してほしい。最近の保護者は熱心に教育現場に協力されていると感じる。「子どものために何を頑張るか」という考えに意識改革できるような地域対話にしてほしい。
- ・児童減少と共にそれを支える世代の人口も減少するので、今の教育環境をそのまま維持するのは難しい。新しい選択肢も考えていかなければならない。
- ・子どもの人数に応じた学校再編は避けられないと思う。特認校とした場合、支援を必要とする子どもが通う学校と感じないようにしてほしい。

【第2回】

○再編について

- ・方向性を示すスケジュール感について、目安を教えてください
- ・多い学校から少ない学校に児童数を増やすことはできないのか。人数が多いと運動や勉強で、一人当たりの時間が取れない。例だと、運動会。人数多いと時間がかかり種目も少ない。
- ・統合した場合、宮川小学校に統合すると考えているが、現在の校舎は古いので建て替えるということも考えられる。駐車場も少なく、立地をもう少し金沢よりに建てることはできるのか。

○地域との関わり

- ・プールやスケートセンターが無くなっていく。子供が育つ環境がなくなり寂しく感じる。人が増えるのにはマイナスな方向に向いている。金沢から出て行ってしまう人が多く、人が少ないため役が多いということもあるだろうが、金沢に戻ってこない。地域で改善していかなければならないところもあるが、市の子育て環境もあると思う。負担だけが増えていく。地区全体で考えていく必要があるが、市で改善できるところがあれば改善してほしい。

○移住について

- ・移住などの人口増加政策について、市全体として地域づくりや人口を増やす議論を部署との連携を進めてほしい。地域対話も学校のあり方だけでなく、人口増加の政策を取り入れることで、興味を持ち参加する人が多くなるのでは。

湖東小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・新しい枠組みとはどこまでの考え方か。合理的に考えると統合すればよいのではないか。
- ・子供が少なくなると、支える保護者も少なくなるし、学校数が多くなると修繕にもお金かかるので、統合していくのは仕方ない。

○人数について

- ・学校を選ぶ熱心な人もいる。学級や支援学級の人数基準の変更は考えているか。
- ・今後人数が1学年数名になる事や男女比から考えると、教育的に不安。義務教育なので学校人数に係わらず同じ教育をしていく必要がある。あまりにも教育的な所だけお金をかけられないのが行政。

○通学方法について

- ・足の確保は手厚くしてほしい。

○その他

- ・統合した場合の学校施設建築費の国庫補助金の期限はあるか
- ・若者に選ばれるまちを考えた時に、どのように考えるか。移住者は自然の中での子育て環境を上げる人が多い。教育内容で特徴を持たせることは考えているか。
- ・御代田、佐久穂は私立。教育環境の特徴を持たせるなら、私立を誘致する。
- ・低学年の子に7時間座るのは難しい。カリキュラムを9年間で変えられるなら、変えるのもありか（義務教育学校+分校）。1～3年自然豊かな環境に校舎があり、自然学習を多く取り入れる。4～9年本校舎で高度な都市型の学び。足の確保だけは考える。
- ・永明小中の学校の作り。学年によって部屋の大きさや空間の使い方が違っていて、行政も配慮をしていると感じる。
- ・体験格差。価値基準を見極める必要がある。
- ・なぜ茅野市には9校あるのか。

【第2回】

○再編について

- ・統合ありきだと思っていたが、1回目の意見でいろんな考えを聞かせてもらえてよかった。通学距離を考えて欲しい。他の学校では、地域と学校とのかかわりが違うので、全市で揃えていくのは難しいと思う。基本的には統合する方向でよいと思うが、小規模を選べるとか選択肢がある方が良い。
- ・茅野市の考えを出してもらった方が考えを持ちやすい。漠然としている。
- ・数年かかる話なので、小学校の保護者より保育園の保護者たちのほうが自分事になるのでは。
- ・第1回の開催については知人から聞いた。保育園単位でも意見交換会を開いてもらえたらありがたい。

○選択制について

- ・学校の選択制をした場合、関係が薄くなることも考えられる。

北山小学校区 保護者対象の地域対話報告

【第1回】

○再編について

- ・11 人中に男の子が3人しかいないので、同性が多い環境で学ばせたい。統合後の内容を決めていくべきでは。
- ・市教委での統合のイメージは？
- ・6市町村の中で同じような話があるのか。他市町村で合併したメリットデメリットを教えてほしい。

○人数について

- ・35人学級は大変、約20人で、2学級が望ましい。少人数できめ細やかな指導を希望している親もいる。地域に子どもを呼び込むためには、きめ細やかな設備が必要。
- ・少人数だからこそ、先生からきめ細やかな指導を感じる。団体で行う行事やスポーツなどの問題も指摘されるが、縦割り班などもあり、あまり問題だと感じていない。少人数を望む親も多いと思う。北山小を維持できたと思う。
- ・人間関係が崩れたりした場合など少人数にデメリットがある。子供の意見を聞くことも必要なことなのでは。

○通学方法について

- ・学区域がとても広く通学が問題だが、どのように考えるか。

○その他

- ・人口推移の減少の市の対応。保育園のあり方について（複合施設について）。
- ・地域の特色を持った学校の在り方を考えていきたい。
- ・教員にも意見を聞き「指導のしやすさ」という観点でもあり方を考えたい。
- ・今後統合をする場合は、こども達の心のケアを大切にしてほしい。
- ・諏訪市城北小学校出身、現在は廃校しているが、まちに元気が無くなってきたと感じる。地域全体の事柄として検討してほしい。
- ・学校は一度無くなると地域はとてもさみしくなる。規模が大きい学校を残すといった効率的な選択だけでなく、規模関係なく対等に検討を重ねてほしい。
- ・学校は防災施設という観点でも大切だと思う。どのように考えるか。
- ・若者に選ばれるまちを考えた時に、移住者は自然の中での子育て環境を上げる人が多い。教育内容での特徴を持つことは考えているか。

○アンケートフォームより

- ・児童数が少ないことで、人間関係が固定化されるデメリットはあるが、近隣校との交流や学年を超えた学びなど固定観念に縛られない環境があれば良いと思う。少人数は深い学びがメリットでもらうが、レッテルが貼られると逃げ場がないケースもある。個人や時期により、選択できる環境がよい。
- ・小さい頃にたくさんの人と触れ合う機会があった方が子ども達にとって好ましいと思うため、一定数を下回る学校・学年の統合は止む無しかと思う。教員不足や財政問題も踏まえると厳しい環境になると思う。あまり長引くと保護者や地域住民にも負担になるので、期限を切って進めるのが望ましい。

【第2回】

○再編について

- ・会場に来て対話に参加して欲しい。数年後になってからプロセスが大事になるのでは。複式学級は教員の技量に左右されると聞いた。再編後、親等が違う地域という扱いを受け、子供にも影響しないかと心配する。バスを使っていない地域ではバス通学に抵抗があるのではないかと。また、バスの運転手の確保や経費が掛かる。子供は25人学級で、小規模のデメリットを感じないくらい楽しく通っている。
- ・地域から学校がなくなるのは寂しい。移住者も少なくなるのでは。統合のスピード感はどのようになるのか。学校選択制にすると選ばれる学校と選ばれない学校がでてくるのではないかと心配する。
- ・再編するのであれば、北部中学校に小学校を作って欲しい。9年間の中での学びを構築してほしい。
- ・再編した場合は、地区コミュニティセンターはどうになってしまうのか。

○人数について

- ・20人くらいなら柔軟に対応できるが、5人の学級だと総合の学習など自分と違う考えの人が一緒に展開を進める学習が難しいと思う。人数が少なくなるのでコミュニティセンター規模の学校施設で、分校や近隣学校と交流するなど色々な組み合わせをして、頻繁に他の学校と交流するのが理想。

○複式学級について

- ・複式学級のデメリットとしている、異学年が混ざる状況は、教育環境としてはメリット。6学年あることが絶対ではなくてもよいのではないかと。
- ・東京から4月に引っ越してきて、自分が住む地域でどのような課題があるか、子供がどのような環境で育っていくのか見たかった。東京でも人気のある地域（30人×6学級）と普通の地域（30人×3学級）がある。少人数のメリット（のびのび・顔が見える学校運営、細やかな指導、異学年でのコミュニケーション）、複式学級も縦割りがメリットとなる。
- ・縦のつながりの学びは可能性を感じる。給食や掃除など学校としても縦のつながりを大事にしている。生活・総合の学習では2学年で行っている。教科は内容が決められているので、複式学級の中で異なる学年を指導するのは、教員の技量が求められる。

○財政について

- ・9校維持の場合、建物維持していく財源があるのか

○地域づくりについて

- ・学校が果たしている役割は学校がなくなってもなくなるしないし、子供がいなくなるわけではないと考えている。なぜ学校がなくなってしまうのか、地域の人はどう考えているか聞きたいし、こども目線で考えて欲しい。学校以外で自分が居られる場所があれば、苦しい思いをしないのでは。

○その他

- ・参加人数が少ないので、アンケートなどの意見を踏まえながら進めて欲しい。

○アンケートフォームより

- ・学校再編に関する意思決定がどのようなプロセスでおこなわれるのかが知りたい。
- ・参加者少ないため、web ミーティングを利用する・PTA 活動で取り上げる機会を作ることとしてもよい。閉校した施設は、リモートワークとしての場所提供・外国人向け宿泊施設・都市部や外国の姉妹都市等のサマースクール等など利活用方法もある。